

みどり福祉会 2017年度活動総括（概要）

1、無差別・平等の介護の実践を行う

- ・ショートステイでは上半期、職員体制の交替で稼働率が低下する中、稼働率を上げるため、「多様な症状の方を受ける」という新規利用者の獲得をはかり、60%台の稼働率が80%を超えるまでになってきました。また、ADLを落とさないようにと機能訓練にも力を入れています。
- ・社会福祉法人減免制度は特養・ショートで16名前後の方が対象で150万円程度助成している。

2、総合的な介護の質の向上をはかる

- ・特養では看取りを20件行い、終の棲家の役割を果たしました。
- ・特養では他の事業所で4つの身体拘束をしていた利用者に対し、原則身体拘束をしないとの理念のもと、3つを取り除くことができました。また、その取り組みの中で食事全介助だった方が自己摂取できるまでに援助しました。
- ・介護事故予防の取り組みを実施し、表皮剥離は今年の半分程度に減少した。
- ・ケアハウスでは利用者の要望に基づいた行事食の実施や外出に取り組んで、利用者の満足度を向上させています。
- ・第39回岐阜民医連学術運動交流集会に過去最高の7演題を発表した。

3、平和、憲法、社会保障を守り、充実させる取り組みをすすめる

- ・特養、ケアハウス両施設長が県社保協自治体キャラバン行動に参加し、施設の状況や行政への要望について訴えました。
- ・職員、高齢者施設をつくる会会員と共同で9条守る署名・介護充実署名に取り組みました。
- ・特養のあるユニットでは県連作成の9条ボールペンを職員に配布しながら署名の集約をしました。

4、職員の確保と育成をすすめる

- ・下半期管理体制を強化し、職員の退職を激減させました。
- ・あんきの家では採用者到達表を用い、職員の到達度の確認や面談を実施し、効果を上げています。
- ・職員の面接を進めています。管理と職員間で目標を共有し実践しました。
- ・新人職員に対し、民医連の理念教育、福祉会の歴史をオリエンテーションし、GWで内容を深めた。（2回）

5、共同組織とともに安心してすみ続けられる街づくりをすすめる

- ・職員と合同で介護充実署名、自治体キャラバン行動に取り組みました。また、あんきの家秋祭り、ささゆり鮎焼きパーティーにも高齢者施設をつくる会、地域のボランティア組織の協力も頂き、継続的に取り組みました。
- ・新規の取り組み、生活支援の取り組みが課題です。

みどり福祉会 2018年度活動方針

- 1、無差別・平等の地域包括ケアの実践をすすめます
- 2、入居者・利用者様の「人権の尊重」「生活の質の向上」をめざし、共同の営みに基づいた介護の質の向上をめざします
- 3、経営目標を達成するため、全職員に依拠した取り組みをすすめます
- 4、平和、憲法、社会保障を守り、充実させる取り組みをすすめます
- 5、職員の確保と育成をすすめる、働きやすい職場をめざします
- 6、高齢者施設をつくる会、自治会など地域の諸組織、他の介護事業所・医療機関とともに安心してすみ続けられる街づくりをすすめます
- 7、利用者や地域の要求に沿った法人長期計画を作成します